

学校だより

平成26年12月発行 鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8013



Microsoft主催 Imagine Cup 2014 に日本代表で出場



海学祭



商船学科卒業式



名古屋港での鳥羽丸による本校PR活動

- 校長式辞
- 就職・進学
- 国際交流
- 明治時代の本校関連史料の発見
- 学生活動の紹介
- 大型練習船実習
- 海外研修報告
- 新任教職員紹介
- 学校通信

校長式辞

平成26年度卒業式・商船学科

校長 藤田 稔彦

本日ここに多数のご来賓ならびに保護者の皆様ご出席のもと、平成26年度、鳥羽商船高等専門学校「商船学科卒業証書授与式」をとり行い、これからわが国の産業や科学技術を担っていくフレキシブルな人材を社会に送り出すことができずには、本校教職員・在校生一同にとりまして、この上ない喜びであります。

本日、商船学科を卒業された航海コース13名、機関コース9名の皆さんは、5年6ヶ月の高等教育の課程を修了し、進士士の称号を授与されました。卒業生の皆さんの今日に至るまでの努力を称えますとともに、皆さんを物心両面から支えて来られた保護者・ご家族の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。

商船学科を卒業された皆さんは、本校キャンパスや鳥羽丸における4年6ヶ月の席上課程の後、丸1年間に及ぶ大型練習船での実習・訓練を経験されました。このような経験は、普通の高校や大学の教育課程では得られない

貴重なもので、皆さんの今後の人生において大きな財産になると思います。

皆さんの多くは、取得した海技免状を活かし、まずは航海士あるいは機関士として海運会社に就職されますが、石油、船舶、あるいは冷凍空調関係のエンジニアとして陸上企業に就職される方もおられます。また、さらに勉学を重ねるべく、本校専攻科に進学される方や、国立大学に編入学される方もおられます。進路はさまざまですが、皆さんが、本校の教育目標にある「人間性豊かな教養人」、「創造性豊かな技術者」、「国際性豊かな社会人」として、今後ますます成長されることを願っています。

今や世界が高度情報化社会となり、経済のグローバル化が急速に進展する中で、皆さんは、産業界とくに海事関連分野等において、深い専門知識と広い視野を持ち、リーダーシップを備え、かつ日本人としてのアイデンティティをしっかりと持った国際人としての活躍が期待されています。今後さらに

英語力、コミュニケーション能力等の向上に努め、本校で培ってきた創造力、実践力を実社会でも存分に発揮できるように努めてください。

本校は、明治6大教育家の一人、近藤真琴先生によって明治14年に創設された鳥羽商船を前身とし、130年以上の長い歴史と伝統のある学校です。その昔から本校で連続と受け継がれてきた教育理念、あるいは校風とも言えますが、「進取・礼讓・質実剛健」、この3つを大事にしてください。進取とは、みずから進んで事をなすこと。礼讓とは、礼儀をつくし謙虚であること。質実剛健とは、飾り気がなく、まじめで丈夫であることです。本校の卒業生は、国内外のさまざまな分野で活躍しています。今後、皆さんも本校で学んだことを誇りとし、自信をもって力強く人生を歩んでください。

最後にになりますが、本日ここに22名の商船学科卒業生を社会に送り出すことができました。これもひとえに保護者の皆様そして関係各位のご理解とご支援の賜物と、本校教職員一同厚く御礼申し上げます。

ます。また、ご来賓の皆様にはご多用のところ、本式典にご臨席を賜り、卒業生・修了生の晴れの門出を祝福頂きましたことに心から御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、鳥羽商船高等専門学校は皆さんの母校であると同時に、社会への旅立ちの母なる港（母港）、ホーム・ポートであります。海学祭あるいは同窓会などの折には、また元気な顔を見せてください。皆さんのこれからの長い人生航路の安全とご活躍を心よりお祈りして式辞と致します。



商船学科航海コースの進路について



商船学科航海コース主任

片岡 高志

商船学科航海コースの平成26年9月卒業生は13名です。このうち就職が11名（自主就職1名を含む）、進学が2名となりました。就職者の内訳は10名が海上就職で、残り1名が自主就職（未定）です。就職先の内訳は、外航海運では大洋日本汽船(株)に1名、近海・内航海運では宇部興産(株)に4名、津軽海峡フェリー(株)に2名、イイノガストランスポート(株)に1名、神原ロジスティクス(株)に1名、栗林マリタイム(株)に1名が採用されました。進学は、推薦による大学編入で神戸大学海事科学部に1名が合格し、本校の専攻科海事システム学専攻に1名が入学しました。

今年度の海上への就職については、外航海運の採用が1名のみであり、大手三社の採用はありませんでした。外航海運の採用試験が始まった頃の海技試験の筆記試験合格者は、二級海技士（航海）1名のみであったことが大きく影響していると思われるかもしれません。他高専においては、二級以上の筆記試験合格者が外航海運に多数採用されており、大手三社にも採用されており。

就職試験で勝ち上がっていくためには、学校の成績だけでなく各種資格試験や、TOEICのスコアが重視されます。大手外航海運を希望する学生諸君は、二級のみならず一級筆記合格を目指すとともに、無線関係では第三級海上無線通信士の資格取得にも励んでください。同時に英語力のスキルアップに努め、日々の努力を怠らないようにしてください。

商船学科機関コースの進路について



商船学科機関コース主任

伊藤 友仁

平成26年9月の機関コース卒業生は9名で、全員が就職しました。そのうち、海上就職が4名、陸上就職が5名でした。海上就職は、宇部興産海運2名、協栄マリン1名、海輪社1名です。陸上就職は出光興産2名、前川製作所1名、ケイラインエンジニアリング1名、カキトリー1名でした。大学および本校専攻科への進学はありませんでした。

本校の商船学科は本来、外航船員を養成することを目的として設置されています。できるだけ多くの学生が上級の海技士国家試験（2級、1級筆記）に合格して、外航船社への就職にチャレンジすることが理想です。最近では、少しでも高いTOEICスコアを獲得しておく必要もあります。一方、陸上企業の場合でもSPI試験や独自の学力試験が課せられるケースが多くなっています。学生の皆さんに必要なことは、課外活動などで心身ともに鍛えておくこと、ならびに低学年から英数国等の基礎学力をしっかりと身につけることです。これは、採用試験（面接試験、学力試験、SPI、適正検査、作文：等々）で必ず役立ちます。高学年では、一般教養を高め、礼儀等を含む総合的なコミュニケーション力をも身につけてください。本校の国際交流事業に参加するなど、国際感覚を備えることも極めて重要です。

本校で、学生一人当たりの求人数が一番多いのは機関コースです。しかし、実力がなければ希望する進路には進めません。学生の皆さんは、低学年時から十分将来に備えてください。

電子機械工学科の進学・就職状況

電子機械工学科長

廣地 武郎

平成26年度の電子機械工学科（以下M科）5年生は36名です。進学5名、就職31名、全員の進路が決定しています。ちなみに昨年度は、M科卒業生34名中、進学7就職27でした。

進学状況

今年度の進学者は36名中5名であり進学率は14%です。昨年度と比べて少し減少していますが、これは本校専攻科への進学者が減ったためです。もう少し進学率が高くて良いのかなとも感じます。進学先の内訳は、豊橋技術科学大学2名、長岡技術大学1名、電気通信大学1名、本校専攻科1名です。本校専攻科は2年間の学修の後、学位授与機構に学位申請をすることにより学士号が取得できるものです。

進学者の多く（ほとんど全員）が推薦で進学しているのですが、自分の興味のある学問分野、専門分野に適した大学があれば、学力試験を恐れずその大学に挑戦してほしいものです。

就職状況

求人数は上向きだとは感じますが、やはり人材の選別は厳しいものがあり、複数回の挑戦をしなければならぬ場合が増えていきます。意欲不足、能力不足のものは落とされます。希望の職種、会社に就職したければ、やはり日ごろの勉強、自己啓発は必須ということですね。ただ、基本は対人能力（協調性、社会性）明るく、元気と常識です。クラブ活動をしていると有利ですね。

進学にせよ、就職にせよ、門戸は大きく開かれている状況です。自分の進みたい方向を見極め、自主的、積極的に行動することが必要です。

制御情報工学科の就職・進学



制御情報工学科長

伊藤 立治

制御情報工学科の就職・進学状況についてお知らせします。5年生39名中12名は進学、27名が就職希望でしたが全員の進路が決まりました。進学組12名中8名は本校専攻科に、4名は豊橋技術科学大学に合格しました。また就職組27名は8月までに全員の内々定が決まりました。

就職先について紹介します。今年の特徴は特定の会社に多くの学生が集中したことです。高専が国のお金で運営している学校である以上、なるべく多くの会社に学生を分散して就職させるのが理想です。今年には確かに売り手市場でしたので、理想的な形で学生の就職指導をしたかったのですが、実際は優良企業に全員を就職させようと必死でした。これにより結果として特定の会社を多くの学生が受験することになりました。一番多かったのがN T T系の会社で、7名が就職しました。それ以外では、L I X I L に3名、日立ビルシステムに2名、ダイキンエアテックノに2名が受かりました。1社1名となったのは、中部電力、東芝、J R 東海、美和ロックス、中部テレコミュニケーション、富士ゼロックス三重、N E C ネットエスアイエンジニアリング、沖電気カスタマアドテック、住友電設、国際ソフトウェア、日光化成、シンフォニアエンジニアリング、荏原環境プラントです。

専攻科の就職・進学状況



専攻科長

宮崎 孝

専攻科の就職・進学は、今年度も良好でした。就職活動は、3月から提出書類の準備を行い、ほとんどの学生が希望の一社目で5月中旬までに内々定をもらい、6月中旬には全員が就職先を決定しました。学校推薦による就職がほとんどですが、大学4年生と比べても良好な結果となっています。大学卒の学歴を得て就職したい場合、専攻科への進学は、お勧めです。また、進学先は生産システム工学専攻が、豊橋技術科学大学大学院情報・知能工学専攻となっています。専攻科から大学院へ進学した学生も、望んだ企業に就職できているようです。

好調な就職状況ですが、これは入念な準備があったことです。準備のための一歩としてインターンシップがありますが、今年度は専攻科からは、東芝産業機器システム(株)、富士電機(株)、旭化成(株)のインターンシップに参加しました。今年度の就職先にも、前年度のインターンシップ先であった企業が多数あります。今後も、積極的にインターンシップに参加して欲しいと思います。

来年度から就職活動のスケジュールが変更となります。学校推薦の場合は選考期間が短くなりますので希望先の企業選びは重要となります。自由応募との併願も必要となります。就職情報の提供も後ろ倒しになりますが、自主的な情報の収集と自己分析による準備が必要です。専攻科としても、新しいスケジュールに対応できるよう、学生の支援を行っていききたいと思います。

平成25年度卒業生進路先一覧(順不同) 平成26年3月3日現在

商船学科

- 就職先 商船三井フェリー(株)、(株)名門大洋フェリー、宇部興産海運(株)、八馬汽船(株)、第一中央内航(株)、福寿企業(株)、神原ロジスティクス(株)、津軽海峡フェリー(株)、伊勢湾防災(株)、キャプテンライン(株)、共栄マリン(株)、大栴海運(株)、出光興産(株)、ジャパンマリンユナイテッド(株)、ヤンマーエネルギーシステム(株)、旭運輸(株)、(株)東洋信号通信社、イースタンマリンシステム(株)、ケイラインエンジニアリング(株)、(株)吉村造船鉄工、自主就職(漁船)
- 進学先 神戸大学 海事科学部、鳥羽商船高専専攻科(海事)
- その他 外航日本人船員確保・育成スキーム

電子機械工学科

- 就職先 (株)東芝、中部電力(株)、東海旅客鉄道(株)、花王(株)、富士電機(株)、森永乳業(株)、東芝エレベータ(株)、沢井製菓(株)、(株)日立ビルシステム、日本オーチスエレベータ(株)、菱電工機エンジニアリング(株)、安川エンジニアリング(株)、東レ・プレシジョン(株)、NTT フィールドテクノ(株)、シンフォニアエンジニアリング(株)、大岡技研(株)、(株)フォーラムエンジニアリング、(株)大阪シェル、(株)コシナ、松田工業・松田精工(株)、(株)テクモ、村田ツール(株)、ケーアイ技術(株)、日本小型船舶検査機構、大紀町役場
- 進学先 北海道大学 工学部、豊橋技術科学大学 工学部、鳥羽商船高専専攻科(生産)

制御情報工学科

- 就職先 関西電力(株)、東海旅客鉄道(株)、富士電機(株)、東芝エレベータ(株)、中部テレコミュニケーション(株)、(株)アドバンテスト、(株)PFU、(株)沖カスタマアドテック、ネクストウェア(株)、NTT コムソリューションズ&エンジニアリング(株)、オムロンフィールドエンジニアリング(株)、ダイキンエアテクノ(株)、(株)メイテックフィルターズ、(株)NTT ネオメイト、国際ソフトウェア(株)、(株)パーソナック、テラテック(株)、伊勢市消防
- 進学先 北海道大学 工学部、岐阜大学 工学部、豊橋科学技術大学 工学部、長岡技術科学大学 工学部、鳥羽商船高専専攻科(生産)
- その他 大阪美術専門学校

平成25年度専攻科修了性進路先一覧(順不同) 平成26年3月3日現在

海事システム学専攻

- 就職先 旭タンカー(株)

生産システム工学専攻

- 就職先 DIC (株)、日本ヒューレット・パッカード(株)、(株)NTT ファシリティーズ、サンリツオートメイション(株)、(株)コスモス・コーポレイション
- 進学先 京都大学大学院、豊橋技術科学大学大学院

国際交流



KCC国際インターンシップに参加して

商船学科航海コース4年

松井 秀介

僕は、3月8日から3月28日の間、KCC国際インターンシップに参加しました。

今回は、鳥羽商船高専から3人、弓削商船高専から2人、富山高専から3人の学生が参加しました。

このプログラムでは、ハワイのカウアイ島にあるカウアイ・コミュニティ・カレッジ（KCC）という学校に通い、英語はもちろんのこと、ハワイの伝統航海術について学びました。また、授業ばかりではなく、ナマホエという大型航海カヌーの建造作業にも参

加したり、オーシャントレーニングという授業では、海での安全について学んだり、他では体験出来ないようなことを学べました。



ハワイの人たちはとても優しいので、英語が分からなくても優しく接してくれました。滞在中は大変なこともありましたが、他高専やKCCの学生と友達になったり、英語を話すことが楽しくなったり、勉強の面だけでなく自分自身の内面的にも大きく成長することができたと思います。興味をもった方はぜひ行ってみてください。

MEELキャンプに参加して

MEELキャンプに参加して

制御情報工学科3年

吉川 なつめ

私たちは今年の6月26日から7日間、MEELキャンプに参加してきました。シンガポールには日本にない素敵な建物がたくさんあり、訪れた学校も規模が大きくて感動しました。

船に乗ってからも、新鮮な経験をたくさんすることができました。途中に寄ったレダン島で見た海は、とても美

しいものでした。街を回るときには、シンガポール・マリタイム・アカデミーの学生に案内してもらいました。

観光地に連

れて行ってもらったり、おすすめのお食べ物を教えてもらったり、とても親切にしてもらうことができました。レダン島で一緒に遊んだり、交流会や授業で話し合いをしたことは、今でも思い出に残っています。

今回は、たくさん貴重な経験をすることができました。日本とは違った文化に触れることのできるとてもいい機会になりました。現地で親切にしてくださいました方々、このような機会をくださったり、いろんなところで私たちを助けてくださった先生方に感謝します。

英語キャンプに参加

制御情報工学科5年

岩本 知樹

私は8月17日から31日の2週間、シンガポールで行われた高専生対象の英

語キャンプに参加しました。2週間という僅かな期間ではありますが、普通では得られない数多くのものを得ることが出来ました。

シンガポールは海外という環境を体験するには比較的手軽だと思いました。シンガポール人は色々な人種が混在しており、多数の言語が入り乱れているので日本人のたどたどしい英語にも寛容です。また国土が小さいため生活に必要な設備・環境・交通手段が整理されていて、日常生活に関しては日本とあまり変わらない感覚で送ることが出来ました。

授業は現地のSingapore Polytechnicにてレクリエーション中心に行われました。各自で街を探検しながら課された課題をクリアするなどの活動的な授業があり、受け身ではなく自分の頭で考えて解決するタイプの授業でした。そうした授業を通じてシンガポールの街並みや文化を垣間見ることができ、とても貴重な体験ができました。



明治時代の本校関連史料の発見

電子機械工学科 水野 逸夫

1. 新史料の発見

1981年に本校の「百年史」が刊行されてから33年が経過した。私は編集委員の一人であったが、この時に苦労したのが明治時代の本校資料の発掘・収集であった。編集委員一同、できる限りの努力をしたが、資料不足の感は否めなかった。2013年12月、私は偶然に「志摩尚志会誌」49号（明治35年5月発行）を入手した。これにより初めて志摩尚志会と「志摩尚志会誌」の存在を知り、調査を始めた。志摩尚志会とは、志摩地方から上京した学生を中心とし、郷土愛に結ばれた団体で、1885年に東京で結成された。「志摩尚志会誌」はその会報であり、1890年（明治23年）5月に創刊号が出された。会員数は明治24年には200名程度になっており、東京在住者のほか、鳥羽町や志摩郡の有名人が名前を連ねている。会誌は1〜2か月に1回程度発行され、昭和17年の発行まで確認されている。内容は学術論文などの他に郷土からの通信記事が掲載されており、そこに本校や鳥羽の歴史に関わる興味深い記事を見ることができ、欠号が多いものの、名古屋大学教育学部図書館に保管されており、私は閲覧して、「百年史」には記載されていないいくつかの事実を発見した。

2. 主な新事実

(1) 本校による雑誌の発行

明治24年1月、本校の教員、卒業生、生徒による航海に関する雑誌を発行することになった。名称は



「志摩尚志会誌」49号（明治35年5月発行）
本校4代校長 角 利助の論説「海帝国」が掲載されている

「鳥羽船友会誌」とし、隔月に発行予定。これにより志摩国で発行される雑誌は3種となる。この雑誌の存在は確認されていないが、これが本校校友会誌「海友」に発展したと推測できる。

(2) 別科の設置時期

鳥羽町立時代の本校に別科（予科）が設置されたのは明治35年4月である。

このほかにも興味深い事実がいくつか明らかになったが、詳しいことは本校の「紀要」に発表予定である。

学生活動の紹介

Imagine Cup 2014

専攻科生産システム工学専攻1年
島影 瑞希

私達は、7月の終わりにシアトルで開催されたMicrosoft主催による世界最大の学生向けITコンテストImagine Cup 2014に参加し、「かぞへるみ」という家族間のぬいぐるみ型コミュニケーションシステムを展しました。

この大会では、自ら作成したアプリケーションやシステムについてプレゼンテーション、デモンストレーションを行います。大会へのエントリーから競技に至るまですべて英語でやりとりするため、システム開発に加えて英語の勉強にも奮闘しました。

現地では競技だけでなく参加学生やMicrosoftのインターンシップ生が交流するためのレクリエーションやパーティなども催され、終始賑やかで楽しい雰囲気でした。結果は残念ながら入賞できませんでしたが、各国の代表学生や著名な開発者から生の意見を伺うなど貴重な体験ができました。この経験をこれからの勉強、ものづくりに繋げていきたいです。



高専ロボコン2014 東海北陸地区大会

電子機械工学科5年
松原 讓

私たちは、卒業研究として、金沢で行われた高専ロボコン2014東海北陸地区大会に出場しました。今大会のルールは三分間で蒸籠をどれだけ多く運べるかというもので、私たちは一つの大きな球体に乗って蒸籠を運ぶ玉乗りロボットを製作してきました。同好会もジャイロ機構を用いて安定化を図り、より速く蒸籠を運べるロボットを製作していました。

トラブルも多発しましたが先生や先輩方からのお力添えもあり、なんとか完成したわけですが、本番中にロボットがうまく動作せず、残念ながら卒業研、同好会チームともに二回戦敗退という結果に終わりました。私たちは当初より勝敗よりも観客が驚嘆するようなロボットをつくるということをコンセプトにできました。観客の皆さんにロボットの動きをお見せできなかったことに未練が残っています。海学祭等で少しでもロボットが動く姿を見せたいと思います。



U-22プロコンで 経済産業大臣賞

制御情報工学科5年
藤田 梓

私は、2014年10月5日に秋葉原UDXで開催されたU-22プログラミングコンテストに参加してきました。私達が発表した「P・M・カラオケーProjection Mapping Stage」は、プロジェクションマッピングを利用したカラオケボックスの演出システムで、「今までにない新しいエンターテインメント作品で完成度が高い」と審査委員の方々に絶賛され、最優秀賞である「経済産業大臣賞」を受賞することが出来ました。

U-22は、35年目を迎えるプログラミングコンテストで、エントリーした221作品の中から、20チームが本選に進みました。このような歴史ある大会で最高の結果を残せたことを非常に嬉しく思います。

また、10月6日には情報化月間での表彰式にも参加、10月7日から11日まで開催されたCEATEC JAPAN 2014でも作品概要を展示、プレゼンテーションもさせていただきます。大変貴重な経験をすることが出来ました。



CEATEC JAPAN 2014でのプレゼンテーションの様子

最後になりましたが、応援してくださった方々に厚くお礼申し上げます。

サテコン(衛星設計コンテスト)に出場して

制御情報工学科5年
石島 拓哉

サテコン(衛星設計コンテスト)とは、全国の大学や高専が参加する人工衛星の設計や宇宙に関する技術を競うコンテストです。設計の部とアイデアの部などがあり、本校のチームは毎年アイデアの部にエントリーしています。今年の作品は、「宇宙での粉体操作」で、遠い未来、生活圏を火星に広げた人類は、小惑星から金属資源を確保するといふものです。その為に、原料の粉砕、輸送、分級など、宇宙での粉体技術が必要と考え、今回、東京での最終審査会で発表しました。その結果、奨励賞を受賞しました。

私は元々宇宙に関する知識はほとんどなく、最初は不安でしたが、指導教員からの様々なお話を聞き、自分達で実験や模型作りをする中で、いろいろなことを学びとても良い経験ができました。今回、S科とI科から学生が参加し、楽しく活動できました。

今後参加する予定なので、興味ある方は是非一度、二号館二階の電子工学実験室(指導教員は伊藤(友)教員)まで。



海学祭を終えて

制御情報工学科4年
松葉 太雅

今年度の海学祭実行委員長の松葉太雅です。海学祭は今年で49回目の開催となりました。

今年度の学生会は5年生がいないため、4年生を中心に各部署を担当し、部署間の連携を図りつつ準備から当日までやりとげました。更に、前夜祭と本祭の日は天候が悪く、一時は中止も視野に入れて進行していきましたが、学生会役員、海学祭実行委員、そして教職員の皆様のご協力のもと無事、終えることができましたことを学生会一



同感謝しております。

今回の海学祭のテーマは「心撃の海学祭」でした。このテーマには「来場者の心を撃ち（打ち）感動させる様な海学祭」という意味が込められており、来場者のみなさんはそのテーマ通りに楽しめたかと思っています。今回も学外のたくさんの方々に来場していただきました。鳥羽商船の学生とみなさんで素敵な海学祭にすることができて本当に良かったです。

来年の海学祭は50回目となります。今年よりパワーアップした海学祭を開催したいと思っています。

全国高校総体少林寺拳法 競技大会出場

商船学科2年
大塚 美紗

8月8日～8月10日の3日間、千葉県成田市で開催された全国高校総体に参加してきました。少林寺拳法がインターハイの正式種目として行われたのは今年が初めてです。本校からは三重県代表として組演武1組、単独演武2名が出場しました。大会に向けて限られた時間のなか精一杯練習に励みました。試合当日の会場は緊張感に包まれ練習の成果を出しきることができたか不安でした。圧倒される雰囲気呑み

こまれそうになりました。

たが日頃の練習が私を支えてくれました。

今回の大会でいい結果は残せませんでした。が、とてもいい経験になりました。

他校の演武は私の新たな目標となり、自分を精進させる糧となりました。この目標を達成するためにこれからも日々努力していきたいと思っています。



東海地区高専大会ソフト テニス競技女子個人戦優勝

電子機械工学科4年
山岡 一貴

私達ソフトテニス部は、第52回東海地区高専大会に向け、日が暮れてボールが見えなくなるまで大切に時間を使い、大会当日まで全員が緊張感を持って練習に取り込むことができたと思います。

本大会での成績は、男子が団体戦で

5位でしたが、個人戦では昨年よりも多くのペアが2回戦まで勝ち進んでくれました。女子の団体戦は、部員が少なくはじめてから1ペアが不戦敗となるハンデもあり、4位でした。しかし、今年は個人戦で5年生ペアが優勝し、全国大会へ出場することができました。

高専大会を通して感じたことは、代表として参加した選手のみならず、大会へ出場できなかった部員達も試合前に練習のサポートをしたり、試合時にはみんなで熱い応援を送ったりしてくれ、チームとしての絆がより一層深まったことです。このように全部員がそれぞれの役割を果たし、部活として一つにまとまるという雰囲気は、今後も大切にしていきたいと思っています。



第52回東海地区高専大会 空手道競技総合の部で優勝

電子機械工学科4年
中野 大地

私達は平成26年7月5日に沼津高専で開催された第52回東海地区高専大会空手道競技に参加しました。本校は団体戦と個人戦に出場し、団体戦では相手の部で優勝、形の部で準優勝となり、総合の部で優勝することができました。また、個人戦では相手の部で電子機械工学科4年の相松孝君が準優勝、制御情報工学科3年の西浦勇氣君が3位、さらに、形の部でも相松君が3位となり、素晴らしい結果を残すこ



とことができました。

空手道競技には相手の部と形の部があります。相手の部では、技の「キメ」、特に強さ、速さ、正確さが重要になります。また、形の部では、技の緩急、技の「キレ」、さらに、立ち方なども重視されます。

空手道は「礼節を重んじ」「和を尊び」「不撓不屈の精神力と強靱な体力」などを培う厳しい鍛錬の道でもあります。現在、私達は三重県大学高専大会で団体相手の部2連覇、団体形の部で4連覇しており、さらなる連覇を目指して努力しています。

第25回ジュニア 選抜競歩大会

電子機械工学科2年
清水 勇志

平成26年2月16日、私は兵庫県神戸市の六甲アイランド甲南大学周辺コースで開催された『第25回ジュニア選抜競歩大会』に出場しました。この大会は日本陸上競技連盟主催の大会で、参加標準記録があり、その記録を突破した全国の選手が出場します。

私にとって全国大会は初めての経験でした。緊張はしていましたが、自分のやってきた事を信じて試合でやればいいと思います、不安はありませんで

た。

結果としては、自己ベストの歩きが出来て良かったと思います。しかし、レベルはとても高く、入賞に遠く及ばなくて、全国で勝負することの厳しさを感じました。

そこで来年は更に順位と記録を上げていきたいと思いました。そして、いずれば優勝を狙う実力をつけたいと思います。そのために、今の課題をクリアしていくべく、一日一日を大切に練習を積み重ねて頑張っていきたいと思えます。

東海地区高専大会（水泳） 200Mバタフライで優勝

商船学科2年
松浦 一眞

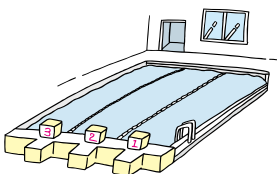
今回の沼津高専で行われた東海地区の高専大会では200Mバタフライで優勝することができました。大会まで、部長を中心に練習メニューを考え、チーム全員で一丸となって練習に励むことができました。

鳥羽商船の水泳部は、一年間通してプールで練習できるわけではなく、夏季のわずかな時間しか泳ぐことはできません。そのため、限られた期間で内容の濃い練習をすることが必要でした。

練習では、辛いこともありましたが、部員同士で励まし合い、練習を乗り切ることができました。

大会当日は緊張で自分の泳ぎができるかどうか不安でしたが、チームメイトや顧問の教官の支えがあり、優勝することが出来ました。練習の成果が出て良かったと感じています。

今年は（独）航海訓練所の大型練習船での実習と日程が重なり全国大会には出場することが出来ませんでした。来年も必ず優勝して、全国大会に出場したいと考えています。



航海訓練所での大型練習船実習

商船学科機関コース4年 鶴宗一郎

航海訓練所での大型練習船実習中の生活は、これまで経験して来た生活とは全く違ったものでした。実習期間の殆どを船内で過ごし、時には何日間にもわたって長い航海をする。航海中は三交代制で当直に入り、そうでない日も、ほぼ毎日実習などで実際の船での経験を積むことができる。そんな生活は、私にとって貴重な経験になるとともに、多くの知識を私に与えてくれました。また、これからの進路を決める前に大型船実習を経験出来たことは、とても大きなことだと思います。

船の上での生活は、私にとってはとても楽しいものですが、そうでない人もいるでしょう。そういった向き不向きを今の時期に身をもって知ること、船乗りになるのか、それとも陸上で働くのか、そんな重要な決断のため大きな指針となりました。

再び練習船で大海原へ繰り出すま



で、次の実習を実りあるものにするためにも、海に思いを馳せながら、学校での座学に励みたいと思います。

大型練習船実習を終えて

商船学科2年 清川拓己

8月22日から9月21日までの1か月間、航海訓練所の練習船「青雲丸」に乗船して、神戸港から東京港までの航海に行ってきました。神戸港を出発する際には、実習生の家族やその他の見物客の方々が岸壁から、更には遊覧船に乗って見送りに来てくださり、とても嬉しかったです。

乗船中は、教室での講義、船橋での見張りや操船、機関室での機械の操作や見回りを行い、船や海への理解を深めました。また、様々な非常事態を想定した操練をしたり、安全に関する講習では階段の昇り降りの仕方から教わり、船に潜む危険や海難の恐ろしさも知りました。

1か月は長い様に感じるかもしれませんが、慣れてしまえばあっという間に過ぎてしまいま



す。これから実習に行く後輩の皆さんには、その限られた期間で、自分は航海士か機関士か、船乗りになるか陸で

海外研修報告

商船学科航海コース准教授 瀬田広明

高専機構の在外研究員制度を利用して、平成25年4月から1年間、トルコ共和国にあるイスタンブール工科大学 (Istanbul Technical University: ITU) で客員教授として、海上交通と操船に関する研究に従事する機会を得ました。700字以内という制限がありましたので、研究内容に関しては学術誌(例えば、The Proceedings of Asia Navigation Conference 2013)に委ね、ここでは簡単にITUの紹介をします。

ITUはオスマン帝国時代の1773年に海軍の技術学校として設立されました。現在は5つのキャンパス内に13の学部(39学科)と6つの研究所、その他複数の施設があり、トルコ国内では3指に入る名門大学(学生数約3万人)です。トルコの公用語はトルコ語ですが、船員はもちろんのこと、多様に変化する国際社会でリーダーシップを発揮するには英語力が不可欠との考えから、大半の授業が英語で行われています。そのため、

働くか、自分の進路を考えるきっかけにして欲しいと思っています。

入学後に英語が不得意な学生に対して最長1年間の英語を学ぶためのクラスが用意されています。

滞在中、幸いなことにITUと学術交流協定を締結することができました。学生諸君にはITUの学生との異文化交流を通して言葉や会話の重要性を理解し、非英語圏でもやっていける(できた)という自信と経験をもって今後の勉学や就職活動にあたってほしいと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださいました校長をはじめ教職員の皆様に厚く御礼申し上げます。ここで得た知識や経験を今後の教育・研究に生かせるように努力して参ります。



新任教職員紹介



事務部長

豆本 博一

4月に兵庫教育大学から着任して、半年が経ちました。大学と研究所の経験はありますが、初めての高等専門学校勤務というところで、とても新鮮な気持ちで毎日を過ごしています。

出身地がお隣の奈良県ということもあり、鳥羽は思い出多い地です。学生の時に訪れた神島、家族と行った鳥羽水族館等々。今でも当時の記憶が蘇ってきて、胸が熱くなってきました。この鳥羽の地で勤務できることを大変嬉しく思っています。

さて、兵庫教育大学では入試を担当していましたが、入試相談会で、高校生や保護者の方々とお話をしている中で、強く意識したことは、相手に理解してもらえぬ説明ができていないこと。また、様々な事情等を正確に捉えることができているかということ。生徒さんの人生を左右することになるからです。コミュニケーション力は、全ての基礎となる大事なことです。コミュニケーション力と共通理解を念頭に置き、業務に取り組んでいきたいと思えます。よろしくお願いたします。



練習船鳥羽丸船長

松井 茂春

平成26年6月1日から、母校 鳥羽商船高等専門学校、練習船 鳥羽丸の船長を務めることになりました。宜しくお願いたします。

どこかに、「男の夢は航海」という宣伝の活字があったような記憶があります。

随分 長い間、世界中 航海をしました。

若い頃(20代)、こんな船員生活をしていていいんだろうか?と迷った事もありましたが、今、振り返ってみると、これで良かった。……という答です。

なかなか、言葉では表現が難しいのですが、例えば、見知らぬ諸外国、各港等の記憶よりも、大西洋のど真ん中、唯、空と海、風力3、航跡、といった「シンプル」が、強い残照。まさに、「男の夢は航海」です。

外航船の実務、経験、その他について、学生の将来の参考になるように、役に立てばと考えています。



練習船鳥羽丸
一等航海士

齊心 俊憲

本年5月より練習船鳥羽丸の一等航海士に着任いたしました齊心俊憲(さいしんとしかず)と申します。

平成元年に本校航海学科を卒業し、高速船ジェットフォイル及びカーフェリー「さんふらわあ」などに乗船勤務、また運航管理及び船員人事担当の陸上勤務をしてきました。

この度、約25年ぶりに母校に戻ってまいりましたが、学生時代を思い返しますと、親元を離れ戸惑った寮生活、機関学科の1クラスが電子機械工学科へ改組及び女子学生の入学、カッター部にて鳥羽主催の高専漕艇大会で優勝したこと、学生会役員での海学祭の運営など、今も鮮明によりみがえってきます。

鳥羽丸に來た学生に将来の目標を訊きますとそのほとんどの学生は「船に乗りたいです。」と答えてくれます。時代は変わっても商船学科の本質は変わってないと実感しております。

そんな頼もしい学生に、海上勤務及び陸上勤務で得られた経験や知識などを、伝えていきたいと思えます。

技術職員からの メッセージ



技術職員
(商船学科機関コース
平成16年度卒業)

吉岡 裕也

技術職員の吉岡です。現在はテクノセンターに所属しています。

テクノセンターは、各学科の実験・実習の技術支援を業務とする「技術支援部門」と企業等との共同研究、受託研究、技術相談などを行う「地域連携部門」から構成されております。

今回は技術支援部門について紹介しようと思います。

技術支援部門は、電気・電子・情報部門、機械工作部門、舟艇・原動機部門、鳥羽丸部門の4班で構成されており、技術支援部門での業務は主に学科の実験・実習支援、教員研究支援、依頼加工業務、各科卒業研究支援、各種コンテスト支援等を行っています。

実験実習では一歩間違えれば大けがをする作業もあるので厳しく指導をすることもあります。技術職員は安全に実験実習を行うための管理をしているので教職員の注意をよく聞いて安全に実習を受けて、より多くのことを身に付けて学んで下さい。

工場見学

平成26年10月22日(水)～10月24日(金)に電子機械工学科4年生、平成26年11月5日(水)～11月7日(金)に制御情報工学科4年生の工場見学を実施しました。就職活動の一環として、企業における実践的な技術を見聞することにより、技術系の仕事と企業への理解を深めることを目的としています。電子機械工学科は、トヨタ産業技術記念館、日産自動車(株)追浜工場、(独)海洋研究開発機構横浜研究所を、制御情報工学科は、富士電機(株)三重工場、(株)NTTデータINFORIUM豊洲イノベーションセンタ、富士通(株)沼津工場を見学しました。

フィールドワーク

平成26年10月23日(木)に全2年生のフィールドワークを実施しました。教育活動の一環として、社会に対する視野を広げさせることを目的としています。

青山高原ウィンドファームを見学し、伊賀市のホテルでテーブルマナー講座を受講しました。

平成26年度専攻科(海事システム学専攻)入学式挙行

平成26年度専攻科(海事システム学専攻)入学式が去る10月1日(水)10時30分から本校専攻科棟マルチメディア教室において挙行されました。今年度は、第10期生となる2名を迎えました。式では、藤田校長の式辞の後、入学生を代表して下園夏海さんから挨拶がありました。入学生は新たな希望を胸に、式場をあとにしました。

NPO法人 故郷の海を愛する会を後援

平成26年7月25日(金)

練習船「鳥羽丸」で行く、造船所見学

平成26年11月2日(日)

海学祭に参加し郷土の偉人近藤真琴の業績を学ぼう

公開講座・出前授業実施

公開講座一覧 サイテランド in 鳥羽商船

講座名	開催日
Wiiリモコンでゲームプログラミング(中学生)	8月18日(月)
LEGOで自動走行ロボットを作ろう(中学生)	8月19日(火)
君が船長 船でGo!(小学生)	8月20日(水)
手作り太陽電池(中学生)	8月20日(水) 8月21日(木)
NC工作機械でキーホルダーを作ろう(小学生)	8月21日(木)
mini水車を作って、水道水で発電しよう!(中学生)	8月25日(月)

出前授業一覧

講座名	開催日
体験型学習 ラミネーターでオリジナル下敷きを作ろう	7月25日(金)
LEGOロボットを作ろう(初級)及び鳥羽丸見学	8月26日(火)
LEGOロボットを作ろう(機械)	10月27日(月)

その他の講座

講座名	開催日
練習船「鳥羽丸」の一般公開と体験航海(四日市港まつり)	8月3日(日)
みえアカデミックセミナー 2014	8月6日(水)
AED講習(鳥羽市一斉避難訓練)	10月23日(木)
みんなでたのしく遊ぼう! ロボット教室(池上地区青少年健全育成会)	10月25日(土)
練習船「鳥羽丸」による名古屋港PR活動及び一般公開	11月8日(土) 11月9日(日)

教職員の人事異動

(平成26年5月1日付け)

【教員】●採用

商船学科助教(鳥羽丸一等航海士) 齊心 俊憲

【職員】●採用

学生課学生生活係技術補佐員 中田 絵美

(平成26年5月31日付け)

【職員】●転出

三重大学施設企画チーム係長 穂積 親憲(総務課専門職員)

(平成26年6月1日付け)

【教員】●採用

商船学科准教授(鳥羽丸船長) 松井 茂春

【職員】●転入(高専間配置換含む)

総務課施設係長 秦 克之(三重大学国際環境教育研究センター支援室係長)

●兼務解除

総務課調達係長 福田 雄一(兼務:総務課施設係長)

(平成26年7月1日付け)

【職員】●昇任

練習船鳥羽丸操機長 大山 哲(操機手)

(平成26年8月1日付け)

【教員】●併任等

・寮務主事 澤田 圭樹

・寮務主事補 今井 康之

●併任解除

富澤 明(寮務主事)

【職員】●採用

総務課企画地域・連携係有期雇用職員 宮嶋 恭子

編集後記



学校だより第81号をお届け致します。

本号では、学内、学外、そして世界で活躍する学生の姿をお送り致しております。

明治期の創立以来、時代は移れども、常に世界と向き合い歩んできた本校ならびに本校学生。その活躍を、その時々ほんの一部でもお伝えできていれば、幸いです。

本号におきましても、多くの方に記事をお寄せいただきました。有難うございました。

(増山記)